

## 2019年度 乙訓少年野球連盟 大会規則及び大会注意事項

- (1) 競技規則は2019年度公認野球規則及び全日本軟式野球連盟(JSBB)の内規を適用する。大会規則は京都軟式野球連盟の学童軟式野球大会規則を準用し、当連盟の特別規則(下線部)を採用する。
- (2) 代表者会議で説明または決定された事項は、チーム全員に徹底させること。
- (3) ベンチは、組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。
- (4) 代表者、監督、コーチは社会人に限る。コーチが監督を代行する場合はメンバー表の監督欄に背番号と氏名を記載し、試合開始前に申告すること。
- (5) ベンチに入れる人員は代表者、監督1名、コーチ2名、スコアラー1名と選手(原則、10名以上20名以内)とする。
- (6) 次の試合を行うチームは試合開始予定時刻30分前までに集合し、所定の打順表を作成(氏名フルネーム、ふりがな、控え選手も記入)して大会本部へ提出する。
- (7) 試合開始予定時刻前でも前の試合が早く終了した場合は直ちに次の試合を開始する。ただし、定刻の開始時間よりも30分前に試合開始をすることはしない。
- (8) 試合開始予定時刻になっても、球場に来ない場合は原則として棄権とみなす。
- (9) 小雨の場合でも日程の都合上、球場が使用可能な状態の場合は試合を行う。
- (10) 本大会の試合回数は7回(1時間20分以降は新しいイニングには入らない)とする。後攻チームが得点をリードする試合において、先攻チームの攻撃終了時に試合時間が1時間15分を超えているときは、その時点で試合終了とする。7回終了または時間打ち切りで勝敗の決しない時は、最終メンバー9名による抽選(先攻チームから交互に守備位置順)で決める。決勝戦は時間制限なしの7回戦とし、なお同点の場合は8回から特別延長戦(継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁の走者とする。すなわち、無死一、二塁から得点を競うタイブレーク)を行い、10回を完了しても決着がつかないときは、最終メンバー9名による抽選で優勝を決定する。全試合、4回10点、5回以降7点差がある場合は、コールドゲームを採用する。但し、C(ジュニア)の試合ではコールドゲームを採用しない。
- (11) 暗黒、降雨、グラウンド使用時間の制限などで試合を中止したとき、4回終了または試合時間1時間をもって正式試合成立とし、均等回の得点で勝敗を決する。正式試合成立以前に試合を中止した場合はノーゲームとし再試合を行う。なお、日程調整上、Wヘッダーを行なうことがある。
- (12) 大会使用球はJSBB公認J号球を使用する。大会により(マルエス)、(ケンコー)の2メーカーを使用するが、一大会は同一のメーカーのものをもって大会使用球とする。
- (13) 捕手は必ずJSBB公認のプロテクター、レガーズ、マスク(スロートガード付)、捕手用ヘルメットおよびファールカップを着用しなければならない。
- (14) 金属製バットは、JSBB公認のみ使用できる。
- (15) 打者、次打者、走者、ベースコーチは、ヘルメットを着用しなければならない。
- (16) 同一チームの各プレーヤー、監督、コーチは同一、同形、同意匠のユニフォーム(帽子、アンダーシャツ、ストッキングを含む)を着用し、スパイクは金属製金具のついたスパイクは使用出来ない。なおスパイクの色は自由とし、全員同色でなくても構わない。
- (17) 背番号は監督30番、コーチ28・29番、主将10番、選手は0番から99番までの数字であること。ベンチに入る代表者、スコアラーも同意匠の帽子を着用すること。
- (18) タイムはプレーヤーが要求したときではなく、審判員が認めた時である。
- (19) 抗議のできるものは監督、または当該のプレーヤーのみとする。(ルール適用を誤った時だけ)
- (20) どんな方法であろうと相手チームのプレーヤー及び審判員に対し、悪口暴言を吐くことを禁ずる。
- (21) 選手及び応援団の行動については、当該チームが一切その責任を負うものとする。
- (22) 変化球は一切禁止する。(詳細は別記の全日本軟式野球連盟取り決め事項参考)
- (23) 投手の投球制限は7イニング(特別延長の場合、最大9イニング)とし、投球数制限は行わない。
- (24) 死球(コールはヒットバイピッチ)及びボークを採用する。隠し球は禁止する。ただしBの部、Cの部のボークに関しては後述の大会規則補足を参照。

【大会規則補足】

※ 全日本軟式野球連盟取り決め事項（競技者必携 2019 抜粋）

学童部の投手は変化球を投げることを禁止する。投球が審判員によって変化球と判断された場合は、次のペナルティーを課すこととする。

- (1) 変化球に対して“ボール”を宣告する。
- (2) 投手が変化球を投げた場合は、投げないように監督および投手に厳重注意する。注意したにもかかわらず、同一投手が同一試合で再び変化球を投げたときは、その投手を交代させる。なお、その投手は他の守備位置につくことは許されるが、大会期間中、投手として出場することはできない。
- (3) 変化球を投げられたときにプレイが続けられた場合は、打者が一塁でアウトになるか、走者が次塁に達するまでにアウトになった場合は、プレイを無効とし、打者のカウントに“ボール”を加える。この場合の状況によっては、攻撃側の監督の申し出があれば、プレイはそのまま有効とする。ただし、打者が安打、失策、四球、死球その他で一塁に達し、走者が進塁するか、占有塁にとどまっている場合は、変化球と関係なくプレイはそのまま続けられる。

※ ボールデッドライン付近のファウルボール、ボールデッドの取り扱いについて

野手は捕球のために場外に手を差し伸べることはできるが、足を踏み込むことはできない。フェア飛球またはファウル飛球（ファウルチップを除く）を正規に捕球した後ボールデッドの個所に踏み込めば、打者はアウトとなるが他の走者は野手が踏み込んだ時の占有塁から一個の進塁が許される。

1. 打球あるいは送球が場外となるのを防ぐための捕球で野手がボールデッドの個所に踏み込んだとき、打球と野手の悪送球には二個、投手の牽制悪送球に対しては一個の進塁が与えられる。
  2. ボールデッドライン付近の飛球に対し、“ファウルボール”の宣告を審判員が早める場合がある（捕球前にファウルと宣告された飛球を野手が捕球しても無効である）。
- ※ リーグ戦での順位決定は、①勝率、②勝ち試合数、③失点率（一試合あたりの失点）、④直接対決の結果の順で成績を決定する。それでもなお同点同率の場合は、代表者による抽選とする。

※ C（ジュニア）およびBの部の試合時間、決勝戦、その他の取り決め事項

	C（ジュニア） 4年生8月まで	C（ジュニア） 4年生9月から	Bの部 4年生11月から	Aの部 5年生11月から
塁間と投捕間	21mと14m		23mと16m	
投手の投球制限	3イニング	5イニング	7イニング	
イニング数	5回あるいは1時間10分		7回あるいは1時間20分	
3位決定戦	5回あるいは1時間10分		7回あるいは1時間20分	7回あるいは1時間20分 特別延長戦1回
決勝戦	5回あるいは1時間20分 特別延長戦1回		時間制限なし（7回戦） 特別延長戦1回	時間制限なし（7回戦） 特別延長戦3回
	※特別延長戦でも同点の場合は抽選とする			

☆C（ジュニア）の部では、暗黒、降雨、グラウンド使用時間の制限などで試合を中止したとき、3回終了または試合時間50分をもって正式試合成立とし、均等回の得点で勝敗を決する。後攻チームが得点をリードする試合において、先攻チームの攻撃終了時に試合時間が1時間5分を超えているときは、その時点で試合終了とする。

☆ボークの採用について、Bの部では教育的指導を行った上で、再度、同一の不正があれば採用する。

C（ジュニア）の部では教育的指導を繰り返す。ただし、Bの部、Cの部に共に審判がボークの採用が妥当と判断した場合はボークを採用し、これに対して他の者は何人たれ抗議する事は出来ない。

☆監督が1試合に投手のところへ行ける回数の制限は：1試合3回以内、守備側のタイムの回数制限は：1試合3回以内、攻撃側のタイムの回数制限は：1試合3回以内とする。

【乙訓少年野球連盟 審判員心得について】

審判員の帽子、ズボンと上着はいずれも紺、夏期（5月初～9月末）の上着については白の半袖シャツ若しくは長袖シャツとし、靴は黒色に統一する。但し、当連盟の指定審判帽、審判服及び参加チームの加盟団体が別途定めた審判帽、審判服についても着用を可とする。審判員は試合前に下記の事項を確認し合い、相互に協力して試合を裁定する。

- ☆グラウンドルールの確認。
- ☆ボークの判定に際して、投手の軸足、自由な足の踏み出す方向をよく見る。
- ☆塁審は打者のハーフスイングを注視し、球審からの確認要請に備える。
- ☆各イニング攻守交代時にプレート板周辺を整え、ベンチからの選手追い出しに協力する。
- ☆得点、試合開始と終了時間の確認。
- ☆足を高く上げての危険なスライディングの禁止、ペナルティーの採用、教育指導。
- ☆監督が一試合に投手のところに行く回数（7回戦の場合3回以内）の確認。
- ☆捕手を含む内野手が一試合に投手のところに行く回数（7回戦の場合3回以内）の確認
- ☆攻撃側のタイムの回数（1試合に3回まで）の確認
- ☆不必要なタイム、ボール回しなど、遅延行為の防止協力。

【淀川河川敷公園 野球場 大山崎第2面のグラウンドルールについて】

ボールデッドラインはバックネット裏から両チームベンチ前の側溝コンクリート蓋およびコンクリートブロックより以遠とする。一塁側はコンクリートブロックの延長線上をボールデッドラインとして審判員がボールデッドを判断する。コンクリートブロックからの跳ね返りはインプレイ、レフトからセンターにかけての植え込み（レフト線から6つ目、ゴルフ禁止の看板の右隣の植え込みまで）にボールが入り、アンプレイ（プレイ続行不能）と審判員が判断したときはボールデッド、ツーベースとする。

公園グラウンドは最終使用時間の終了と同時に駐車場ゲートが閉鎖されます。よって、使用時間終了10分前を限度として試合を途中で終了することがあります。その場合、正式試合が成立していれば均等回の得点をもって勝敗を決します。

【ベンチ入りする指導者、保護者へのお願い】

ベンチ内およびその周辺での携帯電話の使用は禁止します。メガホンは一個に限り使用を認めます。ベンチを含む競技場内での喫煙、ガム噛みを禁止します。指導者は学童野球にふさわしい服装を心掛けて下さい。

大会会場における災害、事故等については、施設・当連盟は一切の責任を負いません。特に小さいお子さんには同伴する大人が注意を払って下さい。また、スポーツ安全保険またはそれに類する保険への未加入者はベンチに入れないで下さい。